進捗報告資料

安達智哉 to-adachi@ist.osaka-u.ac.jp

2019年5月29日

1 メモリ負荷の算出

文献 [1] に示されているコネクション確立に伴うシグナリング図を図 1 に示す。UE が Idle 状態から Connected 状態へ遷移する際に各ノードのメモリが保持する情報について OAI のソースコード (OpenairinterfaceCN-develop) を元に調査を行っている。具体的には、各シグナリングを処理する際に各ノードがメモリに格納する情報をリストアップし、それらの情報量を足し合わせることによりメモリ負荷を推定する。今回は、MME が関与している以下のシグナリングを処理する際にMME が保持する情報を調査した。

- S1-AP Initial UE msg
- S1-AP Initial Ctxt Setup Request
- S1-AP Initital Ctxt Setup Compl
- Modify Bearer Request
- Modify Bearer Response
- S1-AP UE Ctxt Release Req
- Release Access Bearers Req
- Release Access Bearers Resp
- S1-AP UE Ctxt Release Cmd
- S1-AP UE Ctxt Release Compl

MME は各シグナリングを受信、送信する際に保持する情報を以下の表1に示す。

S1-AP Initial UE msg を受信した際は、約 2KB の分の構造体を生成しており、この構造体に UE のコンテキストやベアラ情報を格納している。S1-AP Initial Ctxt Setup Compl の受信と Modify Bearer Request の送信処理では、メモリに情報を追加する処理は行っていない。。 Modify Bearer Response を受信した際は、MME の持つ UE のステートに関する情報の更新を行っている。しかし、メモリに保持する情報量に変化はない。

S1-AP UE Ctxt Release Req を受信した際は、MME が保持している UE のステートを Connected から Idle へ変更する処理や次のシグナリングである Release Access Bearers Req の準備等を行っているが、メモリに保持する情報の追加や削除は行われていない。 Release Access Bearers Req の送信の処理処理ではメモリ操作はない。 Release Access Bearers Resp を受信してから S1-AP UE Ctxt Release Cmd を送信するまでの処理で、MME の管理するベアラ情報の更新を行う。 S1-AP UE Ctxt Release Compl を受信した際に UE のコンテキストを削除している。

表 1: シグナリングメッセージを処理する際に MM	ME が保持する情報
----------------------------	------------

シグナリング	情報名	情報量 (bit)
S1-AP Initial UE msg	ue_description_s	408
	ue_context_s	17470
S1-AP Initital Ctxt Setup Compl	-	0
Modify Bearer Request	-	0
Modify Bearer Response	-	0
S1-AP UE Ctxt Release Req	-	0
Release Access Bearers Req	-	0
Release Access Bearers Resp	-	0
S1-AP UE Ctxt Release Compl	ue_context_s	-17470

S1-AP Initial UE msg を処理する際に MME は、ue_description_s という名前の構造体を保持することが表 1 より分かる。この構造体の中身を以下の表 2 に示す。

表 2: ue_description_s のメンバ

メンバ	情報量 (bit)
enb_description_s	32
s1_ue_state_s	160
enb_ue_s1ap_id_t	24
mme_ue_s1ap_id_t	32
<pre>sctp_stream_id_t (s ctp_stream_recv)</pre>	16
<pre>sctp_stream_id_t (s ctp_stream_send)</pre>	16
s11_sgw_teid	32
outcome_response_timer_id	32
s1ap_ue_context_rel_timer	64
合計	408

表 3: ue_context_s のメンバ

メンバ	情報量 (bit)
imsi	64
imsi_auth	1
enb_s1ap_id_key_t	64
enb_ue_s1ap_id_t	24
mme_ue_s1ap_id_t	32
sctp_assoc_id_t	32
ue_context_rel_cause	224
subscription_known	1
msisdn[MSISDN_LENGTH+1]	128
msisdn_length	8
mm_state	64
ecm_state	64
is_guti_set	8
guti	80
me_identity	240
e_utran_cgi	56
cell_age	64
access_mode	128
apn_profile	356
access_restriction_data	32
sub_status	96
subscribed_ambr	128
used_ambr	128
rau_tau_timer	32
*ue_radio_capabilities	8
ue_radio_cap_length	32
mme_s11_teid	32
sgw_s11_teid	32
paa	328
<pre>pending_pdn_connectivity_req_imsi[16]</pre>	128
pending_pdn_connectivity_req_imsi_length	8
pending_pdn_connectivity_req_apn	72
pending_pdn_connectivity_req_pdn_addr	72
pending_pdn_connectivity_req_pti	32
pending_pdn_connectivity_req_ue_id	32
pending_pdn_connectivity_req_qos	160
pending_pdn_connectivity_req_pco	784
pending_pdn_connectivity_req_request_type	32
default_bearer_id	8
eps_bearers[BEARERS_PER_UE]	13464
mobile_reachability_timer	64
<pre>implicit_detach_timer 4</pre>	64
initial_context_setup_rsp_timer	64
 合計	17470

2 eNodeB が追加された時のメモリ負荷

新規の eNodeB が接続した際には、enb_description_s という構造体が生成され、この情報を MME が保持する。この構造体の中身を表 4 に示す。この構造体のサイズは 225 bytes であること が分かった。

メンバ	情報量 (bit)
s1_state	128
enb_name[150]	1200
enb_id	32
default_paging_drx	8
nb_ue_associated	32
ue_coll	320
sctp_assoc_id	32
next_sctp_stream	16
instreams	16
outstreams	16
合計	1800

表 4: enb_description_s のメンバ

3 考察・今後の課題

今回の調査結果から、UE が Idle 状態と Connected 状態それぞれの状態にあるときに MME のメモリに与える負荷が明らかになった。今回の結果では、UE 1 台が Idle 状態である時は、約 408 bit のメモリ負荷が発生していると考えられる。また Connected 状態である時は、約 17,470 bit のメモリ負荷が発生していると考えられる。

また、eNodeBが新しく追加された時は、約1,800bit のメモリ負荷が発生することも分かった。ここで以前調査した、上野さんの実験データに基づく MME のメモリ負荷を図2に示す。この図では、UE 及び eNodeB を増加させつつ UE のアタッチ処理を完了した際にどれほどのメモリ負荷が MME に発生するかを示している。図の結果では、UE 1台のアタッチ処理のために約750 KBのメモリ負荷が発生している。

図2の結果と今回の調査結果は直接比較することはが、2桁ほどずれている点は留意すべきである。上野さんに確認したところ、図2の結果はMMEを起動しているシステム全体のメモリ消費を見ているということであるため、OAI以外のレイヤーの通信プロトコルの処理負荷も含まれていることが分かった。図2の結果と今回の調査結果の間で大きなずれがある理由は、他の通信プロトコルの負荷の影響である可能性が高い。

- NB-IoT 関連の論文を調査する。
- 上野さんの実験で発生したパケットを解析する。
- Connected Inactive 状態において"状態遷移を伴わないデータ送信"が可能なデータ量を調査する。

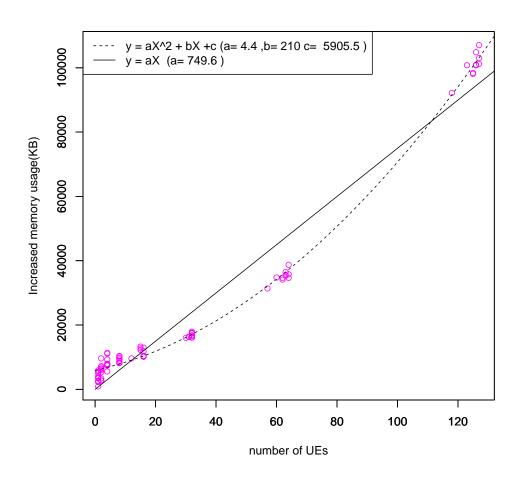


図 2: UE、eNodeBの増加とアタッチ処理の完了によって増加したメモリ負荷 (MME)

参考文献

[1] 3GPP, "Study on architecture enhancements for Cellular Internet of Things (CIoT)," 3rd Generation Partnership Project (3GPP), Technical Report (TR) 23.720, Mar. 2016, version 13.0.0. [Online]. Available: https://portal.3gpp.org/desktopmodules/Specifications/SpecificationDetails.aspx?specificationId=2894